



# The Baseball Hall of Fame and Museum

## 公益財団法人 野球殿堂博物館

### 野球殿堂博物館の近況報告

館長 庄司 正信

昨年度についてですが、入館者数増と当館の認知度を高めるため、様々な展示・イベントを開催いたしました。特に昨年は改元の年でもあり、平成・令和の関連資料の展示（平成最後の試合のウイニングボール、令和最初の試合の第1球、巨人の坂本 勇人選手が放った令和第1号ホームランバットとボールなど）や特別展「平成の高校野球」が好評でした。他にも稲葉 篤紀監督率いる侍ジャパンのプレミア12優勝トロフィーの展示や優勝メダル撮影会を行い、来館者にお楽しみいただくことができました。

また、昨年度は当館が開業して60周年ということもあり、開館記念日の6月12日には入館料を一律60円とする企画で、お客様への感謝と誘客を行いました。

その結果、昨年度の入館者数は2018年度同様、11万人を超えると思われましたが、新型コロナウイルスの影響が2月頃から出始め、残念ながら11万人を超えることができませんでした。(105,759人)

さて、その新型コロナウイルスの感染拡大により、野球界では、春・夏の甲子園大会が中止、プロ野球の開幕も延期、その他アマチュア野球の大会なども中止になるなどの状況になっております。当館におきましても、3月からの臨時休館が続いており、計画していた東京オリンピックにちなんだ展示や、野球の振興・普及につながる展示、イベントなどは、開催期間や内容の変更、中止などを余儀なくされております。

殿堂関連にも影響は出ており、今年殿堂入りされた前田 祐吉氏、石井 連藏氏の殿堂入り表彰式は、東京六大学野球春季リーグ戦の慶應義塾大学対早稲田大学の試合開始前に行う予定でしたが、開催が延期となったため時期を変更して行うことができると考えています。また、田淵 幸一氏の表彰式も7月に開催されるオールスターゲームの試合開始前に行う予定でしたが、オールスターゲームが中止となったため、新たな日程を検討することになりました。従いまして、顕彰者のゆかりの品々を展示する「野球殿堂入り特別展」もいつ開催するか未定です。

このような状況の下、当館におきましては、開館60周年企画として「日本代表ユニホーム図録」を発行、他にも子供たちが家で楽しく学べるオンラインプログラム「おうちミュージアム」への参加、図書室のツイッターでは「野球殿堂クイズ この人だーれだ?」をスタートするなど、休館中ではありますが、可能な範囲で野球の振興・普及に取り組んでおります。

皆様におかれましても大変な事態と存じますが、当館は本年度もミッションである「つなげる」「ひろげる」「たたえる」をテーマに、野球の振興・普及に努めてまいりますので、何卒ご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



「日本代表ユニホーム図録」

The Baseball Museum

## 開館60周年企画「日本代表ユニホーム図録」刊行

おかげさまで、当館は昨年開館60周年を無事に迎えることができました。これを記念し、「日本代表ユニホーム図録」をベースボール・マガジン社より刊行しました。

この図録は、日本のプロ野球誕生のきっかけとなった1931年、34年の日米野球での全日本チームのユニホームをはじめ、戦後の日米野球でのユニホーム、1984年ロサンゼルス五輪以降の各日本代表、2006年以降のWBCを中心としたユニホームなどの写真と、国際試合、国際大会の歴史や歴代日本代表のメンバー、大会結果などを掲載しています。歴代日本代表監督であり、野球殿堂入りしている長嶋 茂雄氏、王 貞治氏、山中 正竹氏に加え、侍ジャパントップチーム稲葉 篤紀監督のインタビューも掲載し、類書のない、大変読み応えのある内容となっています。

インターネットや全国の書店はもちろん、当館の通信販売でもお買い求めいただけます。詳しくは当館ホームページをご覧ください。



ムック：98ページ 出版社：ベースボール・マガジン社  
発売日：2020/4/13 定価：1,300円(税込)

## 企画展「野球日本代表の軌跡」

会 期：8月31日(月)まで  
主 催：公益財団法人 野球殿堂博物館  
協 力：一般社団法人 日本野球機構  
一般財団法人 全日本野球協会  
後 援：公益財団法人 日本オリンピック委員会  
場 所：野球殿堂博物館 企画展示室

1913年、フィリピン・マニラで開催された第1回極東選手権競技大会で、野球日本代表は、初めて国際大会の舞台に立ちます。それ以降、野球は国民的なスポーツへと発展し、国際大会でも、数々の名勝負を繰り広げてきました。本展は、これまでの野球日本代表の歴史を紐解くとともに、頂点を目指して闘う侍ジャパンを応援する展示をしています。当初、3月14日(土)からの開催予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のための臨時休館に伴い、営業再開時からの開催となります。

【主な展示資料】

- ・1934年 日米野球 久慈 次郎選手 ユニホーム
- ・1984年 ロサンゼルス大会 松永 怜一監督 ユニホーム
- ・1996年 アトランタ大会 井口 忠仁(現・資仁)選手 ユニホーム
- ・2000年 シドニー大会 松坂 大輔投手 ユニホーム
- ・2003年 アジア野球選手権大会 長嶋 茂雄監督 ユニホーム
- ・2006年 WBC イチロー選手 ユニホーム、優勝トロフィー、決勝戦ウイニングボール
- ・2009年 WBC ダルビッシュ投手 ユニホーム、優勝トロフィー、決勝戦ウイニングボール
- ・2015年 プレミア12 大谷 翔平投手 ユニホーム
- ・2019年 プレミア12 鈴木 誠也選手 ユニホーム、優勝トロフィー ほか計60点を展示



## 臨時休館中の情報発信

### 「おうちミュージアム」開館

「おうちミュージアム」は、新型コロナウイルスの影響により学校が休校となる中、子どもたちが、おうちで楽しく学べるアイデアを発信する、北海道博物館が提唱したオンラインプログラムで、当館は4月3日(金)から参加しました。

今年は、1950年にセ・リーグ、パ・リーグによる2リーグ制が始まってから70周年。そこで、プロ野球の歴史について知っていただけるよう、現在のプロ野球の始まった1936年から、2リーグ制の始まった1950年代を中心とした野球殿堂博物館の収蔵品を、ツイッター(@BaseballHOF1959)上で「#おうちミュージアム」を付けて、日曜、月曜を除く毎日情報を発信しています(営業再開までの予定)。

また、当館ホームページのWhat's Newでも、発信した記事をまとめたPDFがご覧いただけます。



### 「野球殿堂クイズ この人だーれだ？」スタート!

当館では、日本野球の発展に貢献した方々を野球殿堂入りとして顕彰しており、現在207名の方が野球殿堂入りしています。

4月22日(水)より、図書室ツイッター(@librarybaseball)にて、殿堂入りされている方のクイズを火曜日から金曜日に一日一問ずつ出題しており、正解発表時には、図書室にて所蔵しているその方の著書なども併せて紹介しています。



## こんにちは図書室です



### 図書室の変遷 Part ③

館内の一番奥にある図書室を、ご存じない方もいらっしゃると思いますが、1度いらした方はプロからアマ、大リーグ、韓国、台湾までさまざまな野球の本があることを知って、何度も通って来られます。また、博物館のホームページで「ピックアップブックス」を紹介してからは、高校野球や大学野球の本を見に、定期的にいらっしゃる方が目立つようになりました。

野球に関する本を所蔵し公開している施設として、他に類をみないのではないかと思います。

現在では1年間に図書と雑誌を合わせて、1000冊に近い資料を受け入れています。私が博物館で働き始めた1978年頃は、400冊にも満たないほどでした。当時の受入作業は、まず博物館に入ってきた図書や雑誌を、1冊の大学ノートに日付、書名、巻号数、価格または寄贈者などを記入します。その後、図書は図書原簿に記入しますが、雑誌は大学ノートに記したままで、定期刊行物と単独の雑誌が混在していました。

当時の図書原簿は、和書と洋書の2種類でした（最終的には韓国・台湾の図書原簿が増え、3種類となる）。図書原簿に必要な事項を記入したのち、書名と著者名の2つの図書カードを作成しました。普通、著者が複数いる場合、1人ずつの著者のカードを作るのですが、当館では開館当時から1つしか作っていなかったようです。図書原簿、図書カードはつけペンで記入していました。ペン先にインクをつけ、ペン先が書きにくくなると交換しながら書いていました。図書カードができると、カードケースに並べます。書名のカードは分類ごとに著者名のABC順に、著者名のカードはあいうえお順に並べていきました。本にラベルを貼り、蔵書印、受入年月日、登録番号を押して1冊の受入が完了します。

博物館では、新年度になると前年度の事業報告書を作成します。その報告書に年間受入図書目録を付けるのですが、この目録の作成が大変でした。特に、大学ノートに日付順で記入していた雑誌は、まず定期刊行物だけを抜き出し、次にその他の雑誌を書き出すという作業をしました。B4サイズの集計用紙に、1年間に受入れた図書、雑誌を手書きしたものを、事業報告書といっしょに印刷所に出していました。

90年代半ばになると、博物館にもパソコンが導入され、図書原簿のデータをエクセルに入力するようになりました。97年には、図書室の入口にデスクトップ型でタッチパネル式のパソコンを置き、利用者はアクセスの図書データで、本の検索ができるようになりました。書名的一部分しか分からなくても本を探ることができるようになったことは、図書カードを1枚1枚繰って本を探していた時に比べると、大変画期的なことでした。

その後、雑誌の受入もエクセルで管理するようになり、年間受入図書目録も手書きではなくなりました。

しかし、毎年1000冊ほど増え続けている図書と雑誌の管理は、エクセルでは難しくなり、2019年2月に図書館システムを導入しました。まず、一番利用の多い日本語の野球の書籍を、19年2月から入力を始め、6月1日には約6000冊をOPAC (Online Public Access Catalog <https://bml.opac.jp/opac/top>) で公開しました。OPACのデータは、更新されていきますので、ぜひご利用いただければと思います。

司書 小川 晶子

## 殿堂入りの人々を語る(67)

### 父との思い出

山本 泰 (1965年野球殿堂入り 鶴岡 一人氏長男)



鶴岡 一人氏

幼い頃から記憶を辿っていくと、自分の人生の節目ごとに父の存在があった。南海の寮の片端に住み、グラウンドが近い中百舌鳥球場で選手と遊んだ。小学校に上がる前までは大阪球場、東京遠征、九州遠征と一緒に付いて行った。その頃に思い浮かぶ場面は他のコーチから“代打親分”と言われ、それが父の最後の打席だったことを覚えている。

中学校から野球部に入り、父も時々日生球場に見に来ていた。中学最後の近畿大会で優勝。その後私は高校でも野球をやりたいと言うと、父は「わかった」と一言だけ。私の希望校は甲子園出場の多かった平安高校。私の友達はほとんど明星高校に行き、その明星が高校3年の時、全国制覇。その時のメンバー2番、3番は私の中学時代の同級生だった。

私は父の決めた法政二高に進学。法政二高が神奈川県にあることを知る程度だった。私の野球の師匠は田丸仁氏(元法政二高、法政大学監督)だった。

中学時代は20数名のチーム。何も知らず法政二高に入ったものの、何と100名近い2、3年生。野球部だけで400名以上の1年生。すぐにもレギュラーになれると入部したものの、その時は父を恨んだ。3年生には巨人にいった柴田 勲さん、2年生には大リーガー村上 雅則さんという最強のチームで、私も入部した以上やるしかなく、1年生から甲子園へ行った。

父の敷いたレールの上を私の人生が進み、自分自身の歩みを年代順に述べることになり、その後もまだ続く。

心に残る強い衝撃をうけたことが、法政大学でのドラフト会議前のこと。当時阪神スカウトの河西 俊雄さんから連絡があり、私を2位の予定で獲得すると言われOKのつもりでいた。ところが父が南海が指名するから阪神は諦めてくれと。それでも信じて待つ以外になく、新聞には“親子鷹”とまで書かれた。はっきりとは覚えていないが12位で南海指名、その時何と父は「南海はおまえさんと契約しないから、社会人野球に行け」と。それから父とは何年もの間、口をきかなかった。

私は日本楽器、日拓観光を終了し、大阪堺の実家に帰ると次はPL学園野球部のコーチをするように言われ、昭和49(1974)年4月には監督になる。初めて父から監督の心得などアドバイスを受けた。甲子園勝利インタビューを受け、勇んで帰り勝った報告をするも「何というインタビューだ。何が守りの野球だ。守れていないのに偉そうに言って!」と怒鳴られた。

昭和51(1976)年優勝決定戦。桜美林相手に延長でエースを交代させず負けた時も、なぜ交代させなかったかと父に怒鳴られた。

父は日本シリーズでは巨人と何度も戦っても勝てず、負けても何としても勝つためのチーム作りをしていた。物量でいえば、日本と米国のような戦力の差がある。巨人に勝つにはスーパースターが出てこないダメだが口癖だった。父が初めて巨人に勝った時は、杉浦 忠さんというスーパースターがいた。私はなぜ杉浦さんを4連投させたのかと聞いた。巨人に少しでも隙を与えると力があるのだから必ず這い上がる。だから勝てる時に勝つには杉浦には申し訳ないが投げさせた、と。

私はそれを教訓に、昭和53(1978)年全国制覇した時、西田 真次投手(後に真二。広島)と同等か、将来は金石 昭人(広島、日本ハム他)の方が良い投手かもしれない選手だったが、西田は心臓に毛が生えているような選手だった。私は大事な試合は西田と決めていた。父がやんちゃ坊主を集めろ、言う事を聞かない次男坊、小・中学校で何でもいいが1番になった子や、主将を集めてチームを作りあげたら面白いチームができると言っていた。そして1番大事なことはチームの良いところ、監督の考えていることを盗んで自分のチームに取り込むこと。父が晩年に監督の心得を色々教えてくれた。

日本には四季がある。時期の変化を知り、年間、月間、週間スケジュールを作り、沢山の人の話を聞き取る。大切な子供を預かる以上しっかり指導し、世に出てから頑張れる人間にすることが一番大事なこと。父の教えてくれたことは、今の自分の大事にしていることと同じだと、改めて思い返している。

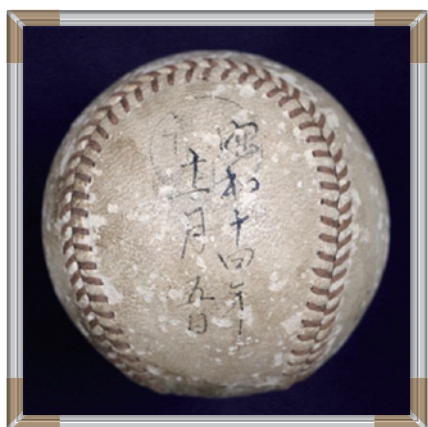
父は家庭を顧みる暇もなく野球一筋。“浪速の春団治”だった。

## もの 知ってほしいこんな資料 (93)

### 鶴岡 一人選手のホームランボール

昨年、南海で選手、監督として活躍した鶴岡 一人氏のご遺族から、鶴岡氏ゆかりの資料をご寄贈いただきました。そのうちの1つが、ホームランボールです。このボールには「昭和十四年十一月五日」「於後樂園 対セネタース戦」「本塁打球鶴岡選手」と記されており、これらの情報をもとに調べると、後樂園球場で行われた1939年11月5日の南海-セネタースの試合で、1回表に野口 二郎投手から鶴岡選手が放った、ホームランボールと判明しました。この試合では、鶴岡選手のシーズン第9号となる2ランホームランなどの猛攻で、南海が1回表に一举6点を挙げ、最終的に7-3でセネタースを下しています。鶴岡選手は、法政大を卒業し、この年がルーキーイヤーでしたが、新人ながら主将を務め、主に三塁手として出場。このホームランを含めシーズン10本塁打を放ち、本塁打王に輝く活躍を見せました。一方、打たれた野口投手も、この年がルーキーイヤー。この試合では敗戦投手となりましたが、シーズンを通して33勝を挙げる活躍ぶりでした。このホームランボールは、若手選手同士の真剣勝負の賜物と言えるでしょう。

鶴岡選手は、翌年から兵役に就きますが、戦後の46年から選手兼任監督として復帰。46年、48年、51年にはMVPを獲得するなど、52年まで選手として活躍します。53年から68年までは専任監督として、野村 克也捕手、広瀬 叔功選手、杉浦 忠投手らを育てました。監督在任23年で、歴代1位の通算1773勝を挙げ、1リーグ時代の46年、48年に優勝、2リーグ分立後はパ・リーグを9度制覇、59年、64年には日本一を達成するなど、名監督としても知られており、監督在任中の65年に野球殿堂入りしました。監督退任後は、野球解説者を務めたほか、少年野球の普及に尽力し、国際交流にも貢献。現在でも、その功績を記念して、鶴岡氏の名前を冠した「ボーイズリーグ鶴岡一人記念大会」が開催されています。また、故郷の広島県呉市では、市内の野球場「呉二河球場くれにこう」の愛称が、2019年より「鶴岡一人記念球場」となるなど、地元でもその功績は称えられています。



「昭和十四年十一月五日」



「於後樂園 対セネタース戦」



「本塁打球鶴岡選手」

このホームランボールは、2020年秋に開催予定の特集展示「鶴岡一人と南海ホークス」で、他の鶴岡氏ゆかりの資料や当時の選手たちの資料などとともに公開します。ぜひご覧ください。

学芸員 井上 裕太

## 野球殿堂博物館 トピックス (2020年1月~3月)

### 1/23 高木 守道氏追悼展示

1月17日に逝去された高木 守道氏(2006年野球殿堂入り)の追悼展示を、野球殿堂ホールにて実施。選手時代のユニホームや、2000安打達成球、監督時代のサイン色紙に加え、立教大学時代の長嶋 茂雄さんが県岐阜卓商にコーチに来た際の写真も公開しました。



### 1/26 WOMEN'S BASEBALL AWARDS 2019が開催



1月26日(日)、野球殿堂ホールにて全日本女子野球連盟主催の、2019年度の各カテゴリーでの最優秀選手、国際大会や女子野球普及活動で素晴らしい成績を残した選手に対する授賞式「WOMEN'S BASEBALL AWARDS 2019」が開催されました。表彰式では、当日出席した14名の選手の皆さんに、パネルにサインを書き入れていただきました。

### 2/11 野村 克也氏追悼展示

2月11日に逝去された野村 克也氏(1989年野球殿堂入り)の追悼展示を、野球殿堂ホールにて実施。選手時代のユニホーム、バット、キャッチャーミット、監督時代のサイン色紙などを公開しました。



### 2/15 公式記録員が教える「NPB式スコアの付け方」教室



2月15日(土)、イベントホールにて、NPB山川 誠二記録課長を講師にお迎えし、3回目となる「NPB式スコアの付け方」教室を開催しました。

今回は、10:30の回を初級者向け(スコアを付けたことがある人向けのレベル)、14:00の回を中級者向け(過去2回のうち、いずれかの教室の参加者限定)として開催。初級者向けでは、日本シリーズの思い出や、NPB式スコアの特徴などを説明の後、記録法について、試合映像を見ながら解説していただきました。また、中級者向けでは、ルールの解説や、ランダウンプレイなど、複雑な事例の記入方法など、より実践的な内容を、試合映像を見ながら解説していただきました。

参加された方からは、「貴重なお話で勉強になった」、「NPB式でスコアを付けながら観戦しようと思う」といった感想が聞かれました。

### 2/25 特集展示

#### 「伝説の日本シリーズ~1992年、93年 西武-ヤクルト~」

・会期 2020年2月25日(火)~7月5日(日)まで

1992年、93年日本シリーズは、2年連続で、森 祇晶監督率いる西武と、野村克也監督率いるヤクルトが対戦。92年は西武が、93年はヤクルトが日本一に輝きましたが、この闘いは現在でも熱戦として語り継がれています。野村氏が逝去されたことを受け、92年、93年の日本シリーズの映像を上映するとともに、当時の両チームの主力選手の資料を中心に展示しました。



### 2/26 [eBASEBALLプロリーグ] 関連資料寄贈式開催!



【eBASEBALLプロリーグ】は、『実況パワフルプロ野球2018』を使用したeスポーツ大会で、2018年にスタート。今回、20年1月25日に終幕した2019年シーズンの関連資料を、MVPを受賞した館野 弘樹選手(巨人)や主催者の日本野球機構様とコナミデジタルエンタテインメント様よりご寄贈いただきました。

### 3/18 「野球報道写真展 2019 ベストショット オブ ザ イヤー」発表

野球殿堂博物館と東京写真記者協会は、企画展「野球報道写真展 2019」(開催期間 2019年12月14日~2020年3月1日)を開催しました。同展では、東京写真記者協会加盟各社のカメラマンが撮影した、2019年シーズンの野球界のハイライトを収めたベストショット70点を展示し、来館者の投票により「ベストショット オブ ザ イヤー」を決定しました。投票総数は4,436票で、第1位は436票を獲得した報知新聞社・清水 武氏撮影の「スワローズ ドリーム ゲーム」が選ばれました(営業再開後に表彰式を行う予定)。



## 2020年度の維持会員を募集中!

「公益財団法人 野球殿堂博物館」には、当館の事業にご賛同いただいた方々に、維持会費をお願いし、博物館の運営をご支援いただく「維持会員」の制度があります。会員には次のような特典があります。



### ● 会員の特典

- (1)博物館発行「ニュースレター」(季刊)を送付します。
  - (2)何度でも無料で博物館に入館できる優待証を発行します。
  - (3)アメリカの野球殿堂博物館(クーパースタウンにある)にも無料で入館できます。
  - (4)会員以外の方でも利用できる博物館招待券を差し上げます。
  - (5)イベント情報などを優先的にご案内します。
  - (6)博物館で販売している商品が10%引きになります。(一部除外品あり)
- \* 法人・個人会員には上記の特典のほか、ご入会時に2018年3月発行の『野球殿堂 2018』を進呈します。(ジュニア会員を除く)
  - \* ジュニア会員には上記の特典のほか、ご入会時に「野球殿堂博物館オリジナルピンバッジ」を差し上げます。

### ● 会員の種類と会費

- 年会費(4月~翌年3月迄)
- |               |    |          |
|---------------|----|----------|
| 法人会員          | 1口 | 100,000円 |
| 個人会員          | 1口 | 10,000円  |
| ジュニア会員(小・中学生) |    | 2,000円   |

### ● ご入会の方法

- ①館内にあります「維持会員募集のご案内」の“入会申込書”に、必要事項をご記入のうえ、係りにお渡しいただくお送りください。  
「維持会員募集のご案内」は郵送もいたしますので、ご希望の方は博物館までご連絡ください。
- ②“入会申込書”が届き次第「維持会費のご請求書」をお送りしますので、維持会費をお振込みください。

お問い合わせ：博物館 業務管理部 (TEL 03-3811-3600) 皆様のご協力、よろしくお願い申し上げます。

## 博物館からのお知らせ

### ▶ 理事・監事の交代

理事・監事の交代

- 〔新任〕理事 武内 繁和氏 (全日本軟式野球連盟会長)  
監事 西勝 昭氏 (東京ドーム専務取締役)
- 〔退任〕理事 木下 宗昭氏  
監事 野村 龍介氏

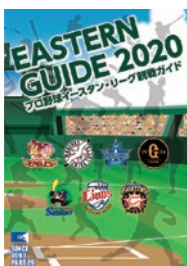
### ▶ 訃報

2020年1月17日に高木 守道氏(2006年野球殿堂入り)が、2月11日に野村 克也氏(1989年野球殿堂入り)、4月9日に関根 潤三氏(2003年野球殿堂入り)が逝去されました。謹んで3氏のご冥福をお祈り申し上げます。

### ▶ 物販

- イースタン・リーグ観戦ガイド2020  
販売価格：510円(税込)

ファーム唯一の観戦情報誌です。注目選手へのインタビューや選手寮の取材など、充実した内容となっております。数量限定となっておりますので、お早目にお求めください。



- グリーンリストバンド2020  
販売価格：550円(税込)

毎年販売しているグリーンリストバンドが、より色鮮やかに生まれ変わりました！  
売上金の一部は植樹等の緑化・環境保全活動に使用します。



※上記の商品は、郵送することができます。詳しくは、当館ホームページをご覧ください。

### ▶ 新人紹介



永沼 里菜子(ながぬまりなこ)  
1993年1月16日生まれ 埼玉県出身  
2015年 中央大学 文学部 人文社会科学科  
社会情報学専攻 卒業  
専門商社、早稲田大学中央図書館を経て、  
2020年4月1日より当館の事業部に勤務。

### 博物館のご案内

- 場 所 東京ドーム21ゲート右
- 開館時間 3月1日~9月30日 AM10時~PM6時  
10月1日~2月末日 AM10時~PM5時  
(入館は閉館の30分前まで)
- 入館料 大 人 600円(500円) } ( )は  
高・大学生 400円 } 20名以上の団体  
小・中学生 200円(150円)  
65歳以上 400円
- 休館日 月曜日(祝日、東京ドームでの野球開催日、春・夏休み中は開館)  
年末・年始(12月28日~1月1日)

### 《6月・7月・8月の休館日》

- 6月 1日・8日・15日・22日・29日  
7月 6日・13日・20日  
8月 無休

※休館日は5月22日時点での予定です。新型コロナウイルス感染状況により、臨時休館や開館時間が短縮になる可能性がありますので、当館のホームページでご確認ください。

●編集後記 新型コロナウイルスの感染拡大により、博物館も3月2日から休館が続いております。このニュースレターも本来でしたら4月に発行予定でしたが、1か月遅くなりました。1日も早く「日常」が戻ってくることを祈るばかりです。

### 野球殿堂博物館 Newsletter 第30巻 第1号

2020年5月28日発行(年4回発行)

編集・発行 公益財団法人 野球殿堂博物館  
〒112-0004 東京都文京区後楽1-3-61  
Tel 03(3811)3600 Fax 03(3811)5369  
<http://www.baseball-museum.or.jp/>



# The Baseball Hall of Fame and Museum

## 公益財団法人 野球殿堂博物館

### リレー随筆 (76)

#### 高木 守道さんの思い出

競技者表彰委員会幹事 古居 宣寿 (中日スポーツ・月刊ドラゴンズ)

1月17日、2代目ミスタードラゴンズの元中日監督・高木 守道さんが亡くなった。中日グループにいてもパ・リーグ取材が長かった記者にとっては、関わりが薄かった方。唯一、時間をかけて話ができしたのは2008年の春、場所は米アリゾナ州メサにある大リーグ・カブスのキャンプ地だった。

中日からFAで移籍した福留 孝介選手(現・阪神)の取材現場。高木さんは観光を兼ねてはるばる後輩の陣中見舞いにやってきた。報道受付で待ち合わせると、開口一番、「おお、君が(中日)スポーツの。じゃあこれ、頼めるかね?」。渡されたのはビニールの手提げ袋。中にはまささらなボールが3つ入っていた。

報道陣が球団施設内で選手にサインをもらうことは堅く禁じられている。だが「孝介に」といきなり持ちかけられた。なんとか福留選手にロッカーの外に出てもらい、ミッションは完了。ようやく2人を絡めた取材を心置きなく…と思いきや、目を離れた隙に高木さんの姿が見えなくなった。隣り合う球場などを探し、会えたのは10分後ぐらいだったか。聞けば広いキャンプ施設を、散歩がてら回っていたようだ。

ドラ番経験の長いデスクから「モリミチさんは手がかからない人。一人でどンドン動くから、特にお世話が必要ない」と事前に聞き、安心してた。確かに行動力は半端ない。お世話も無用だろうが、その分、こちらのリクエストもなかなか届かない。フリー打撃の前か後にツーショット写真を収めようとした際には、遠巻きに見たり、横から見たり。事前にそれとなく伝えても、なかなか接近してはもらえなかった。

不断のマイペースに漂う大物感。福留選手が次の守備練習へ向かい、後に続こうとしたときも「まだ、ええだろう? バッティング、もうちょっと見させて」。続く組のフリー打撃に腰を据えてしまった。登場したのはひとときわ大柄な主砲デレク・リー。ロッテなどNPB3球団で計10年プレーし、通算268本塁打を放ったレオン・リーの息子は、左中間などに大きな当たりを放っていた。

強打者のDNAを受け継いだ、絵に描いたような本物。メジャー取材の浅い記者はできる限りの情報を伝えながら、高木さんの良いリアクションに期待した。「いやあ、よう飛ばすわ」。はい、頂きました! そう思った直後だった。「体は小さいのに…」。高木さんのお眼鏡にかなったのは、リーと同じ組で回るもう一人の選手。確かに中堅方向ヘライナー性の当たりを続け、柵越えもいくつかあった。何よりリーに比べて、ミスショットが圧倒的に少なかった。

「いいもん持つとる。あのへんが日本に来ると、よう打つかも」。高木さんは納得したかのような口ぶり。少し赤みがあった金髪その選手は数年後、実際に日本へやってきた。196センチのリーと並んでいたから小さく見えたが、185センチある右打ち外野手。マット・マートンという名を聞いてピンと来なければ、この業界ではモグリだ。来日1年目に当時のNPB記録を塗り替える214安打を放ち、2年目には30試合連続安打。稀代のクラッチヒッターは虎の聖地・甲子園で何度も光り輝き、中日にとっても手強い相手だった。

高木さんが中日で2度目の指揮をとった2012年からの2年間は、マートンと丸かぶり。その一打によって瞬間湯沸かし器が沸騰したこともあったろう。時差ぼけ状態でも鋭く目が光ったあの時、何かの拍子に縁ができ、中日・マートンが実現していたなら…。球史に残る巨人との10.8最終決戦に敗れ、以降も最後まで叶わなかった胴上げが、見られたかもしれない。